

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・残暑が厳しかったが多くの人が出があり、平日も含めてにぎわいがあった。月の後半は国内観光客が減り、人通りも落ち着きがみられた。人流の増加と比較して、物販店の売上は伸びておらず、相変わらず、消費者の財布のひもが固いと考える。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は2回の連休共に、インバウンドを含めた観光客がかなり増加している。また、それに伴い飲食を中心にかなり売上も増加している。物販についても、新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻ってきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が前年比増加しており、ようやく新型コロナウイルス感染症発生前の来客数の状況に近づきつつある。一方で仕入価格の高騰が続いており、多少は販売単価の引上げをしたが、収益率は厳しい状況にある。これ以上仕入れ等の経費の上昇が続くようであれば、更に難しい状況になっていくが、これからの秋祭りのシーズンには、更なる来客数の増加を期待している。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比105%となり、売上も増加している。ただし、以前にも増して節約志向である。
	○	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・メーカー増産による登録車の増加やガソリン価格の上昇に伴うハイブリッド自動車の受注が増加している。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・キャンセルがあるものの、契約者数は月間目標を達成している。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・取引先からの受注量は3か月前と比べ、微量ながら増えているが、例年、夏から秋にかけていろいろな行事や催物があるため、その影響だと考える。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上と外商売上は共に勢いがなく、何とか前年比同程度になった。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・ここ3か月間の客単価に大きな変化はない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・8月と9月は、一時、商品の値上げが鈍ったため、売上の前年比の伸びが鈍化した。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の行動制限がない夏場の最盛期、活発な人流や旅行客の増加、地域の夏祭りの復活などで、新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻ってきた感がある。今月も気温が高く、また、台風もない状況が追い風となって前月と同様に来客数が前年を上回っている。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・残暑が続きエアコンが好調に推移しているが情報家電の売上の伸びがない。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新車の長納期化に伴い受注停止の車が多いため苦戦している。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて変化は余りない。9月は連休が2回あったこともあり、ネクタイ組サラリーマンの客の利用頻度が少なかった。週末は、私服や若い年代のタクシー乗車は少しあるが良くない。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・今月と前月共に、暑い時期にはめずらしく、四国遍路の仕事がそれなりに入ってきており、売上に支障はない。一方、街については、タクシー台数が少ないものの、それなりに客もいるため、余り変わらずに推移している。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・観光客数が増加した時期から横ばいであり、良い意味で安定している。
	□	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・物価高に加え、新型コロナウイルス感染症関係の行動制限の緩和により、他の遊興費に消費行動が向けられているため、公営競技の投票金額が回復しない。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建設単価については、このところ高止まりの状況にあると考える。	

	▲	商店街（代表者）	それ以外	・これまでは中国の経済成長が全体の景気を大きく下支えしてきたが、その動きも大きく減速し、政治的にも東西冷戦に加えて新興諸国への対応が、極めて複雑になってきた。日本銀行の金融政策も明瞭でなく、円安の進行が止まらない。世界のあらゆる状況に危機が秘められている。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・物価上昇の影響で、贈答品など、どうしても必要な商品の購入が中心になっている。加えて安価な商品を希望・購入する人が増加し、商品よりも価格を見て判断している様子がうかがえる。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・原材料の価格高騰に伴う商品価格上昇の影響により、販売数量が大きく落ち込んでいる。
	▲	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・特売日やポイント販売促進強化日は好調であるが、平常時、他社への買い回りが進んでいる。
	▲	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・スーパーの来客数が減少しているが、客は、価格競争のなか、ディスカウント店に行っていると考える。
	▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みに推移しているが、商品価格の上昇に対し、客単価が減少傾向にある。明らかに客の購入点数が減少しており、購買力や購買意欲の低下がみられる。
	▲	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・商品や原材料費、また、物流費の値上げの天井がみえない。また、コロナ禍は抜けて、インバウンド需要がある首都圏は良いが、地方には少なく地域間格差がある。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当地域で複数の店舗を運営しているが、今月は全体的に来店客が少なく、電気や食品などいろいろなものの値上げが影響しているのではないかと考える。
	▲	衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・ここ2～3か月は全体的に下降気味で、特に残暑が厳しく非常に厳しい状態である。また、単価上昇と同時に賃上げが行われるかどうかは、地方では見当が付きにくい。
	▲	家電量販店（店員）	単価の動き	・性能より価格重視な商品選びをする人が増え、客単価が下がってきている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車受注の状況が、8～9月で前年比減少している。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・10月の酒税法改正により、ビールは値下げし、第3のビールが値上がりするため、9月は第3のビールがよく売れている。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・9月は厳しい残暑が続くとともに、インフルエンザ・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加もあり、客の消費が今一つ伸びなかった。
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援による需要や夏休みのコロナ禍収束に伴うリベンジ消費が無くなり予約の状況は弱含んでいる。
	▲	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・旅行客の動きは前年の全国旅行支援の反動があり、特に団体旅行に影響がみられる。また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ流行の影響があり、宴会の利用も医療関係を中心に予約のキャンセルが発生している。
	▲	美容室（経営者）	単価の動き	・値段を気にする客が多い。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・物価上昇の影響か、外食控えなのか客先への納品が減少している。来店客も買物の回数が減っている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年9月は売上が減少する。加えて、今年は新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの影響が大きいと考える。
企業 動向 関連 (四国)	◎	食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・販売量の減少はあるものの価格転嫁を進め、利益は前年比達成している。
	◎	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に景気が良くなっているようで、特に北海道、関東、九州地域の小売店の受注が旺盛となっており、主にインバウンドが増加しているようにみられる。また、11月から一部商品が値上げになることもあり、実需以上に発注が増えていることも要因である。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・インバウンドを含めた観光客の増加等もあり、取引先の売上は回復傾向にある。

	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の生産出荷量は天候要因から全国的な作況不良により低調で、例年と比較すると卸売価格は全般的に高値で推移している。ただし、消費には力強さがなく、出荷量も少ないことから農家の収入は卸売単価の上昇に反して少なく、作況による個人の格差も例年より大きい。	
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が回復しない。材料費のコストも高いまま推移している。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・我が国は、大型公共工事を中心とした順調な稼働を背景に、需要は堅調に推移している。海外は、緩やかな景気の回復を背景に、欧州を除く全ての地域で需要は増加傾向にある。一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やインフレ・円安進行などにより、原材料・エネルギー価格は高止まりし、調達・物流環境は厳しい状況が続いている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いはあるが、決定しないという状況がやはり続いている。企業としては平均的に行っているが、格段の進歩はない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量に波があり困っている。	
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・内容は良いが先行きが不安で事業継続にも不安がある。	
	通信業（総務担当）	それ以外	・社外とのボランティア活動、セミナー等の参加者数の増加傾向も一服し、新型コロナウイルス感染症流行以前の従来の生活様式へ、ある程度は戻ったと考える。また、ボランティア活動において、社外団体への食品寄贈等の収集数が若干の減少傾向にあり、物価高の影響がみられる。	
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力である造船関係の受注は安定しているが、その他産業用機械関連の受注案件が減少傾向にある。	
	税理士事務所	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症関連の融資の返済により資金繰りが悪化している。今後もそうした企業が増加すると考える。	
	×	—	—	
	◎	—	—	
雇用 関連 (四国)	○	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・公共施設での利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた前年度と比較し130%以上の増加となっている。利用客の増加に伴いイベント規模も大きくなり、景気は良くなっている。一方、人手不足が深刻化している現状に加え、最低賃金をベースアップするため、作業システムの改善と企業努力が強く求められる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人数が一定数あるがミスマッチもあり派遣社員の増員につながらない。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・各職種や業種で中途採用のニーズが増えており、人手不足は加速している状況である。どの業界でも求職者からの応募が少なく、マッチングができていないため、慢性的な人手不足で厳しくなっている状況である。
	□	職業安定所（求人開発）	それ以外	・企業によって回答にばらつきがある。収益は減っているものの、何とか成り立っているという企業もあれば、消費者の購買マインドが冷え込み、景気が良くないと回答する企業もある。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・特に変化がみられない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—